

教科書調査研究の観点

発行者番号・略号	教科書名	記号・番号
9 開隆堂	ORAL COMMUNICATION Revised EXPRESSWAYS I Standard Edition	オI 021

1 内容

- ◎ 生徒の興味と関心を高め学習意欲を喚起するように、身近な題材が精選されている。
- ◎ 「聞く・話す」ための場面や目的に応じた基本的な口語表現が学習できるよう、問題が工夫されている。
- ◎ 学習の中核となる対話文は、全課を通して主要な登場人物（日本人とアメリカ人）が設定され、また、舞台は日本に限られていて、身近で易しい会話が展開している。
- ◎ イラストや写真を利用する言語活動の場面が数多く取り入れられ、ダイナミックな授業展開が可能となる。
- ◎ ペアワークやグループワークの活動形態が設定され、生徒自らの考えによる発話が促されるよう工夫されている。
- ◎ 京都観光や水族館見学で外国人を案内し、その内容を一般的な説明に発展させる特別頁(Welcome to Kyoto!, Welcome to Our Aquarium!), 英語の学校紹介ビデオレターを作るタスク (L. 22) など、オーセンティックで生徒の創造性を育む内容が盛り込まれている。
- ◎ 英語の授業で使われる基本的な表現がClassroom Englishで、また英語を聞き取る際の有益なヒントがListening Pointsで簡潔に紹介されている。
- ◎ 対話文の下に"INFO"として、その課の表現・語法上の留意点が簡潔にまとめられている。

2 分量・構成

- ◎ 全体は前半（5課）と後半（17課）に分けられ、前半では見開き2頁で1課を構成し、「言語の働き」を意識した基礎的な表現を、後半では見開き単位の4頁で1課を構成し、生徒にとって身近な場面での多彩な口語表現を学習できる。
- ◎ オーラルIの標準単位数は2であることから、見開き単位の頁構成は年間指導計画作成上、都合がよい。
- ◎ 課の中核となる対話文は「A→B→A→B」という会話の自然な流れを基本としている。また、前半が約4行、後半が約6行と分量にも配慮が加えられている。
- ◎ 各課は対話文（学習事項確認）→Comprehension（対話文の内容確認）→Listening Practice（聞く）→Speaking Practice（話す）→Communication Goal（グループやペアで対話、発表）とシステムティックに構成されており、授業が行いやすい。

3 表現・表記・使用上の便宜

- ◎ 大判（B5判）の利点を活かし、ゆとりある紙面構成となっている。
- ◎ 全頁4色刷りで、イラストや写真がふんだんに配され、楽しく学習できるよう配慮されている。
- ◎ 活字の大きさは適度で、読みやすい。
- ◎ Communication Goalのタスクには適宜「例」や「ヒント」が提示され、目標である「生徒自らの発話」の促進に役立つ。
- ◎ 英文を聞いて活動する箇所にはヘッドホンのアイコンが表示されており、その活動の趣旨が明確化されるとともに音声教材利用の際の便宜が図られている。
- ◎ 市販の赤いカラーシートを使うことで、Speaking Practiceは解答を隠して練習できる。これにより、生徒の習熟度に応じた学習が可能になっている。
- ◎ 問題中のイラスト、写真には適宜、記号や番号がふられており、スムーズな授業進行のための配慮がなされている。
- ◎ 巻末にはFor Better Communicationとして、日常的な表現を項目別にまとめたリストと、課ごとにまとめた発音記号付きの単語・熟語リストが掲載されており、表現力と語彙力の定着に活用できる。

4 その他

- ◎ 表紙は高校生と同世代のキャラクターが配され、色使いも工夫され、「オーラル・コミュニケーション」という教科への学習意欲を高めるものとなっている。
- ◎ 前見返しには「動作」「天候」「職業」「野菜」「台所」に関する英-日語がイラスト付きで示され、学習の便宜が図られている。
- ◎ 後見返しには「英語のリズム」「ジェスチャー」の解説があり、オーラル・コミュニケーションを実践する上で、大切な事項が網羅されている。